



## 持久走大会への応援ありがとうございました！

先日は、少し寒い中ではありましたが、持久走大会を予定通り実施することができました。練習してきた成果を発揮しようと走る前から意気込んだり、緊張したりしている様子も見られ、前向きに取り組もうとする強い思いを感じることができました。

開会式では、子供たちへ「自分に負けないように最後まで走りきって頑張りましょう」と話しました。持久走は、体力を養い丈夫な身体を養う意味もありますが、それ以上に“心を鍛える”ことに繋がるものだと思います。いつも以上に長い距離を走ることは、慣れていないととてもきついことです。しかし、辛いことから逃げ出さずに取り組むことは、これから生きていく上でうまくいかない時や苦しい時でも進んでいくとする原動力になるはずです。自分では気付かなくても、きっと心の成長に繋がった持久走大会になったことだと思います。

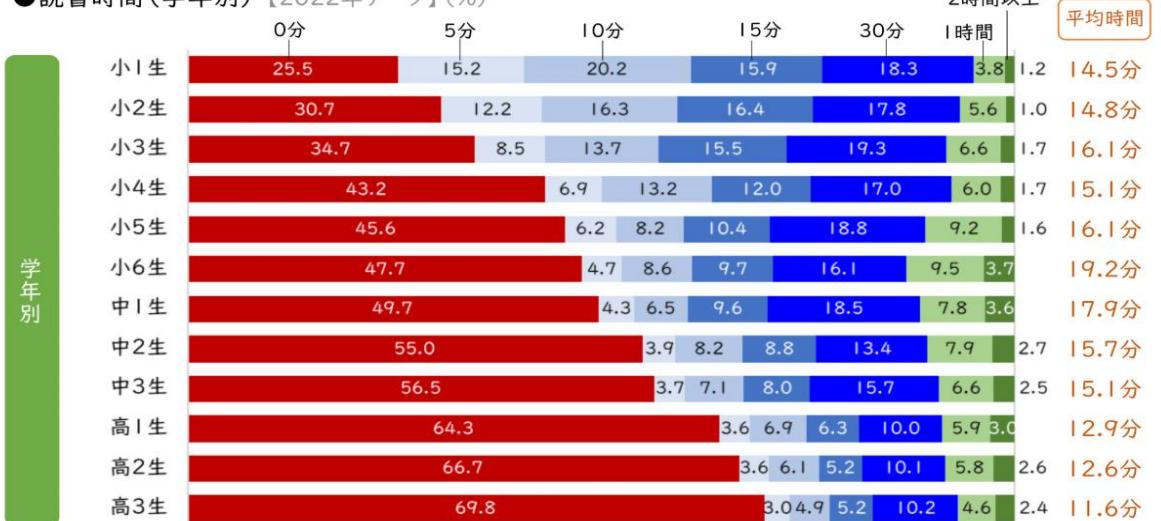
また、多くの保護者、地域の皆様からの応援、そして、役員の皆様からお手伝いをいただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。



## 読書離れが進んでいる

東京大学社会化研究所とベネッセ教育総合研究所による小学生から高校生を対象にした「子どもの読書行動の実態」を調査した結果の一部を以下に載せています。この調査によると、平日の読書時間についての質問では、約半数が「0分」と回答し、学年が上がるにつれて高くなる傾向にあります。読書は、成績や各種経験、将来の目標等との相関関係があることが認められており、読書は人生を豊かにするものであると考えられます。社会が急激に変化している中で、いかに読書に親しむ習慣を身に付けるかが今後の大きな課題です。

### ●読書時間(学年別)【2022年データ】(%)



「子どもの読書行動の実態」ベネッセ教育総合研究所より